

京橋の印刷

12月10日 1994・No.90

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1-16-8
日本印刷会館3F 電話 3552-1855

発行人
荒川龍治



底力ある印刷産業

副支部長 十文字康雄

十月末に開催された「'94中央区産業文化展」は過去二回を凌駕する入場人員を数え、多大の成果をおさめて閉幕しました。

私達印刷産業に与えられた展示スペースは限られたものでしたが、関連各社の協力を得て、プリプレス、オンデマンド印刷を中心に高精細ポスターの配布等、技術革新の今日性をいささかなりとも提示し得たものと確信しております。

さて、長く深い平成不況も三十ヶ月で底を打つたと言われておりますが、わが印刷業界はどうでしょうか。四十ヶ月を越えているという意見もありさまですが、最近の売上動向調査によれば僅かながら明るい兆しも見えてきたと言えそうです。いずれにしても他の製造産業における大手企業の海外工場移転に伴う下請中小零細企業の苦痛に較べれば、わが印刷産業は誠に恵まれた環境にあると言えるのではないのでしょうか。前年比で一喜一憂したり、自らを不況心理に追い込んで浮足だつ必要はありません。来るべき二十一世紀は内需型受注産業だけが生き残る世紀とも言われております。印刷産業はディスプレイ産業にとつかわられるのではなく、情報伝達手段として凌きを削り合いながら、二十一世紀においても主流を成す産業だと言えます。

他の中小製造産業から見れば印刷産業は内需受注産業の典型として垂涎的だとの評価もあります。異業種からの参入・浸蝕を防ぐためにも私達は印刷という仕事に対して誇りを失わず、自信を持って取組み、確たる基盤を築いていきたいものです。

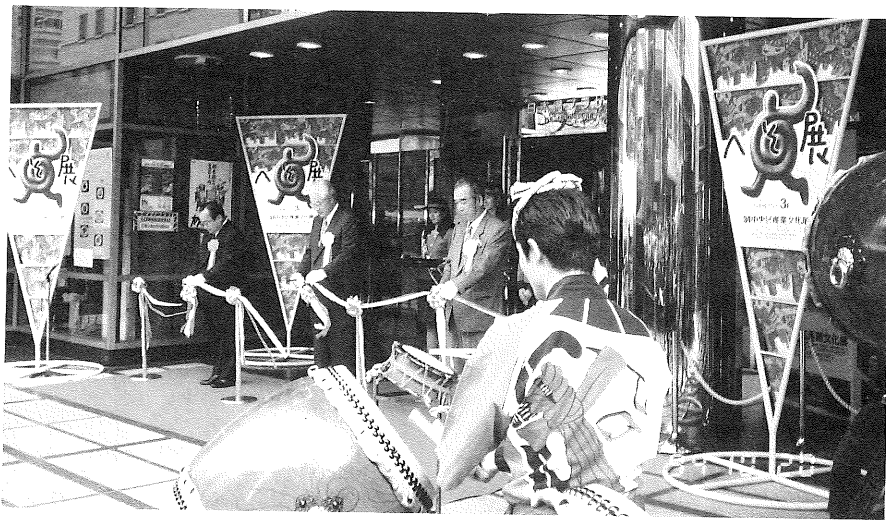
「'94 中央区産業文化展」開催

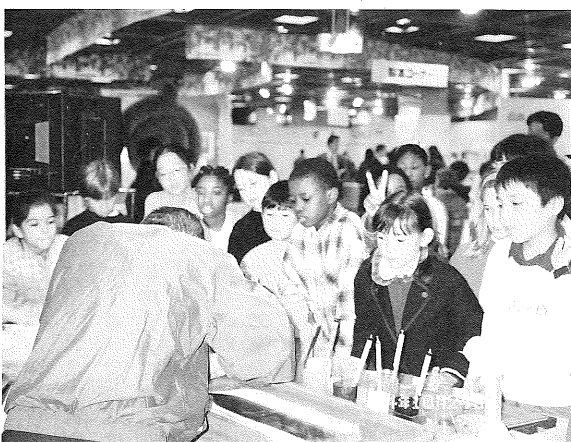
於・日本橋プラザ

第3回目となる中央区産業文化展（へそ展）は、10月25日（木）午後9時30分から、日本橋プラザ前広場にて、丁度開会に合わせて雨も上がるという幸運に恵まれた。河野商工課長の開会で始まり、続いて和太鼓による景気付けのアトラクションに続き矢田中央区長による挨拶が行われた後、矢田区長、神林区議会副議長、平林実行委員会委員長の3名によって、テープカットが行われました。広場には招待者、実行委員が多数集まり、拍手の内に開会式を終了して主会場の三階へと進み、各展示コーナーで、それぞれに見入っていました。印刷産業の発展内容をご紹介しますと、最新の印刷の流れをパネル展示し、マッキントッシュを使用してのカラー画像処理（住友スリーエム、レインボウ使用）、オンデマンド印刷（リソグラフ）等です。会場の都合で、印刷機はハマダ全自動オフセット、小型オフセット（トップランナーII）、刷版機等が展示実演されました。尚、印刷コーナーでは、予め4色機でカラー印刷された、中央区観光写真コンクール入賞作品の「5カレンダヤ」、（株）小森マシナリーの最新細密カラー印刷ポスター（花、バルーン等）を3枚セットにして、来場者に配布しました。その他、紙ヒコキー、

私製年賀状、プリントゴッコ実演（理想科学）も相変わらず人気を集めていました。会場ではビデオ放映によるプリプレス革命（東印工組）等の放映も行い好評でした。ビデオは東印工組で貸出します。（1巻3千円）。製本産業では、上製本の仕上げ作業実演、和本綴じ教室、マール取り実演等が好評で年配の方々に特に人気がありました。製本コーナーでも、便箋・レポーター用紙を来場者に配布しました。製本機械としては、計数機（内田洋行）、無線綴じ機（ホリゾン）、断裁機（永井製作所）等が展示実演されました。その他、人気があったものは、繊維産業のコーナーで、紅花しぼり染めのハンカチを自分で作る体験、プレゼントや、伝統工芸として、「鍛冶」、「江戸刺繍」、「足袋」、「紋入れ」、「つづら」、「和楽器」等の製作実演が人目を引きつけていました。又、広告産業では、中央区に縁のある昔の綿絵や、大正時代の企業ポスター等、昔懐かしい数々の絵が展示されていました。25日迄の6日間に亘り、延べ5万8千人の人々が来場して、中央区の地場産業の活動状況を実感して戴きました。京橋支部の各地区役員の方々の当番で、お蔭様で順調にイベントが終了出来ました。

（岩本）





地区だより

銀座地区

研修・親睦旅行

今年の夏は暑かった……。猛暑、酷暑、厳暑という言葉でどれを使っても云いあわせないくらいこれでもか、これでもか、といった調子で気温が上昇。熱帯夜が通算四〇日を超えるという新記録まで生まれた。夏らしい夏ではあったものの、こんなに秋の訪れが待たれた年も珍しい。

待望の仲秋、一〇月十五日(土)、十六日(日)の二泊二日で銀座地区会では岐阜の桜井グラフィックシステムズの工場見学と京都をセットして研修親睦旅行を行った。恒例の親睦旅行と言うことで、会員の奥様方も六名が参加の総勢二十八名という近來希な大人数での旅行であった。

第一日快晴 東京駅を早朝の七時二十八分発のひかり号に乗車、途中名古屋で乗り換え岐阜羽島よりバスで美濃市の桜井工場へとむかった。バスに揺られること約一時間半、桜井美濃代表取締役他重役陣が門前に待つ工場へと着いた。

最初に案内されたのは三階の会議室で、一つの工場設備の説明があった。この美濃市を眺望する環境に立つ工場はエレクトロニクスを活用したコンピューター・ネットワークによるオンライン管理の工場であるとの説明があった。

次に二手に別れてそれぞれコンピューターを駆使しての生産部設計課から始まり一階の組み立て現場へと案内された。パーツのひとつひとつはコンピューターで造っても最後の組み立ては熟練された職人芸が必要となるのであろう。もつともそのほうが使うほうも安心だと思ふ。

完成機の試運転はOLIVER-472EDⅡ(菊半裁寸延四色機)を見学した。瞬く間に刷り上がるカラー印刷の美しさに同行の奥様連の歓声が上ががる。ヴァブル崩壊後は国内販売が伸び悩み、反面輸出が好調の機種とかで来年のドルッパに出展するそうである。次いで隣に設置されているOLIVER-258Ⅱの試運転を見学する。二色機であると同時にボタンセットで両面機になる便利な機械である。紙版とPS版とで実演してくれたが版換、色換が全て自動で出来特にプラン胴が自動で洗浄されるのは素晴らしいと思う。多品種小ロット化、オペレーター不足に対処する省力化装備の充実に対応して開発されているのは、さすがであるが、欲を言えばより安く提供して貰いたいものである。全ての工場見学が終わり記念品まで戴いてそのうえ東海北陸自動車道的美濃インターのそばのマリーバルホテルにて桜井社長他数名の役員の方々と同席のうえ昼食をご馳走になる。お礼と桜井グラフィックシステムのますますの発展を祈念して乾杯をした後で和食のフルコースに舌鼓みをうつ。

美濃市から京都までは東海北陸自動車道と名神高速道を使って約三時間の道程である。早朝



の出発とサクライで御馳走になったアルコールでほとんどの人が寝入ってしまった。京都南インターから今日の宿の南禅寺の側の八千代旅館に入る。割り当てられた部屋に入り旅装をとくと宴会までにお風呂に入る人と明日の参拝コースに入っていない為に参拝する人とに別れた。南禅寺は南朝の祖龜山天皇の創建になる「京五山の上」という高い格式を持った寺院であるが、度重なる戦火で当時の建物は何一つ残っていない。歌舞伎狂言で有名な山門もずっと後世の建物である。JRのTVコマーションで有名になった水路閣もほどよく苔むして境内の雰囲気によくあっている。

宴会は何十年の歴史を誇る我が銀座地区の親睦会でも過去に例をみない盛り上がりを見せた。それというのも芳紀十七才の舞妓「はるや」さんの功による。ダラリの帯に花簪の日本髪と浮世絵から抜け出してきたような姿で登場したときには同行の美人揃いの奥様連から思わず「ワーツキレイ・カワイイ」と言う感嘆の言葉が発せられた。2曲の踊りを披露した後28人全員にお酌に回って尚その後各グループ毎の記念撮影にも応じてくれた。そのせいでお銚子の数もうなぎ登りに昇り10本単位で追加するので当初の腹ずもりの3倍になった。舞妓さん退場後中メを行ったが誰一人退場する者はなく、これ以上此処にいて飲まれてはお寺参りの方に支障が出るとの会計幹事の合図に慌てて発会以来初めてという大メを行い漸く散会した。散会后も興奮さめやらず三々五々とグループを作った

夜の京都見物に繰り出したがその報告は省略させていただく。

第二日目 本日も快晴汗ばむくらいである。寺院参観であるが、最初は洛北円光寺に行く。このお寺は慶長六年(一六〇一)に徳川家康によって伏見に学問所として建立しその後学校とした。開校後は僧俗を問わず入学をさせたが、使用する教科書をこの寺で印刷し円光寺版と称された。その時に使った木版活字が約四万本寺宝として現存している。住職不在のため詳しい話が聞けなかつたのは残念であるが、印刷文化史上特筆すべき寺院であると言えるのではないか。その他に池泉回遊式の「十牛の庭」がある。紅葉の時期には十分に堪能出来るのではないかと思う。

二番目には中心部に戻り「建仁寺」に参拝した。臨済宗建仁寺派の本山で一二〇二年(建仁二年)栄西が建立した京都最初の禅寺である。ご住職の懇切丁寧な説明をいただいた後でレブリカではあるが、有名な俵屋宗達作の風神雷神図を鑑賞し辞することにした。

三番目に訪れたのは最近とくに若い奥様達に人気のある高台寺である。秀吉の正室ネネが余生を送った寺院であるが、「亭主を天下人にした人」にあやかっつて自分の旦那に出世して貰おうと参拝するのだそうである。寺は池泉回遊式の鶴亀の庭を中心に開山堂と御霊屋があり観月廊と臥龍廊で繋がっている。御霊屋の内部装飾が有名な高台寺時絵である。そのほか山腹に伏見城から移築した傘亭と時雨亭という茶室がある。どちらも重文に指定されている。

高台寺での参拝はさまざまであった。後継者の決まっている所はたつぷりとお賽銭をあげ念入りに拜んでいたが、そうでない人達はただ黙って黙礼をしただけである。後で聞くとところによると秀吉のようにいくら天下人になっても一代限りでは困ると言う理由からであった。

昼食は高台寺からほど近い円山公園内の平野屋「いもぼう」ととった。「いもぼう」とは元来料理の名前で棒鱈と海老芋の焼き合わせたものであるが、美味の為いつのまにか屋号となった。「三百年を伝えしは三百年の味がある」と多くの文人墨客に讃えられている。昨夜のお銚子の追加が祟り昼の上定食はオーダー出来なかつたが中定食で充分満足した。

昼食後最初の訪問は仁和寺であった。広大な敷地に御所から移築した堂宇の残る寺院であるが、昼食時のアルコールのせいかわ又は高台寺での茶室見物のための登山が祟ったせいか説明ぬきで早くという要望のため一巡しただけであった。最後は仁和寺からほど近い妙心寺である。妙心寺は本日早朝より回った円光寺、建仁寺、高台寺と同じ臨済宗のお寺で妙心寺派の大本山である。生憎と大法要が行われていて本山の参観は出来ないが、塔頭の退蔵院のご好意でこちらのみ参拝する事になった。

ご住持の奥さんの迫力ある声の説明で早速昭和の名庭「余香苑」を鑑賞する。その後本堂に戻り如拙作の「瓢鮎図」の説明を聞く瓢鮎で鮎をとるといふ禅問答を表した山水画で一服の掛け軸になっていた。更に如拙の門流の狩野元

信の作の枯山水「元信の庭」をも鑑賞させていただき退出させていだいた。

京都からの帰りは17時発のひかり260号に乗車定刻無事東京駅に着き流れ解散になった。

銀座地区会の歴史は古い。戦後マッカーサー司令部による税制改革の折、特に当時木挽町と言われた1・2丁目は大名屋敷の跡地で地主の旧大名が物納した為、地上権を持っていた人達は大変な苦勞をして取得したらしい。(当時は銀行も封鎖されていた)その折、地主等と交渉する為に結成されたのが地区会の前身と言われている。先輩諸氏の文書による記録は残っていないが写真が残っている。当時はマッカーサー司令部の誤解から町内会等の組織が全て解散させられていたし又新たな結成も認められなかった。その後3区と呼ばれた時代を経て更に新たに地域が広がり銀座地区会となった。結成当時の苦勞を共にし、痛みを分かち合った人達の2世3世の人達が多勢活躍している為その結末は非常に堅い。一時は地区会員でながしのお金を出し合い小口融資のような制度すら在った。堅い為の弊害もなきにしもあらずであるが、現在は印刷業者20社で地区会が結成され関連業者6社を加えて地区親睦会を結成している。

今や銀座は世界の銀座である。伝統の結束と努力でこの不況を乗り越え21世紀を目指して頑張りたいと思う。

(文責 山崎)

話は前後しますが、8月17日(水)、とにもかくにもこう暑いのはどうしようにもないと納涼会を開催しました。場所は生麦のキンピール

の工場でビール博物館から始まり製造プロセスの見学をした後で出来たての生ビールで景氣ほらいをしました。ビールの美味さは格別です。是非一度お出かけ下さい。

京橋地区

一区研修旅行会

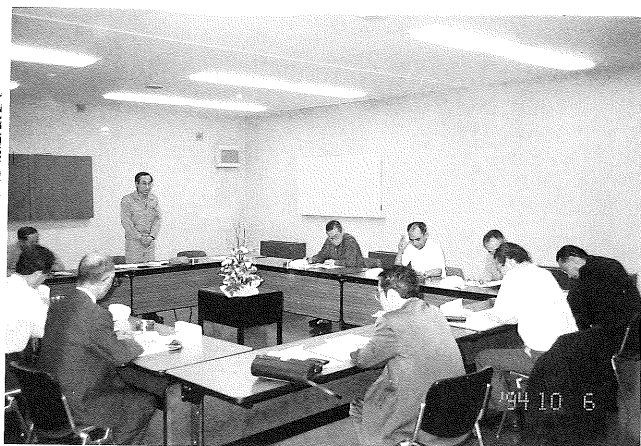
十月七日・八日(土)にかけ、一区(我々は京橋地区をこう呼ぶ)の研修旅行会を開催しました。

今回は、印刷機械メーカーの(株)小森コーポレーションの関連会社の(株)小森エレクトロニクスと(株)小森マシナリーの二社を見学させて頂き、印刷システムには不可欠な電気制御盤の生産行程、小型印刷機の機械加工自動化システムの全行程を研究しあわせて会の結束と親睦を深めようとするものでした。当日は、はっきりしない天気が続いていたのが嘘のように晴れたり、会員の日頃の行いを責めているかのようでした。一行は、七日朝東京駅に集合、山形新幹線「つばさ」にて山形県高島町の(株)小森エレクトロニクスを訪問しました。

まず最初に常務取締役の萩原氏より会社の概要についてご説明頂きました。

当社は昭和六十年に小森製印刷機械のエレクトロニクス関係の部品及び機器の集中生産を行う工場として設立、エレクトロニクス化が進む印刷機械の生産体制の中で大きな役割を担っている会社です。

また当社では、業務の一環として改善活動に



力をいれ、独自の社内物流システムを確立、生産工程及び品質管理の効率化を図り、国内初のUL規格認定業者として指定されました。実際に見学しますと、工場内は整然とし、生産工程での工夫が随所に見られ、若い女子社員が複雑な配線作業を独自の発想により簡略化した様子等を見せて頂きました。

次に、車で五分程の所に位置する(株)小森マシナリーを訪問、工場長の太田氏により会社のご説明を頂きました。

当社では、小型印刷機械専門の量産工場として昭和四十一年に開業、世界に誇る最新FA化工場として、菊半裁サイズのリスロンシリーズ、スプリントシリーズを生産しています。

工場内では、百二十メートルにも及ぶ生産ラインが設置され、ミクロン(1:1000mm)迄追求する精密な部品から組立までの生産体制がとられ、その規模の大きさに驚かされました。

訪問した二社は伊達政宗の生地として知られた、大変自然に恵まれた環境に位置し、我々東京で働いている者には、大変羨ましい限りでした。一行はそのあと、上山温泉に一泊し、翌日紅葉がすすむ蔵王山、こけしの里を見物して帰京しました。

今回の研修会では、(株)小森コーポレーション並びに当会幹事の方々にご苦勞をおかけした事に感謝をし報告を締め括らせて頂きたいと思っております。

平成六年十月

(小宮山貴史)



築地地区

静岡の旅・篠原鉄工所見学記

今にも泣き出しそうな空模様で十月二十一日(金)、雨が降っても槍がふつても行くと決めた、築地地区の工場見学の日である。

今回は静岡市の印刷機械メーカー・篠原鉄工所の見学の旅である。

伝統ある築地地区も年々組合員が減って、一昔前は二十数人以上の旅が常であったが最近では残念ながら十五人も纏めるのが骨である。二三年前に脱退したある社長が「組合の集りと云っても、ただ飲み食いする老人サロンみたいなものだ」と云った事がある。

しかし、同じ地域で同じ商売をする人達が寄り集ってお互いに研鑽することは大事なことでないかと思う。その為にも単なる懇親旅行より工場見学がより有意義であろうと、四年前から工場見学を主体とした旅行会を企画して来た。今回は印刷機械の製造工場であるので唯の旅とは違うんだ!!と一社一社に説得して廻ったが残念乍ら、地区長の不徳の致すところ、やっとの思いで十三人の参加者で旅行当日を迎えた。金曜日と云う事で朝から道路は渋滞が多く、予定の時間になっても、我等の観光バスは姿を見せず、一同集合場所である熊谷印刷さんの社屋の前で四十分程待たされた。

昨年の桜井グラフィック見学の旅は九月で台風の影響を受け、朝から雨中の旅となったので、今年は十月下旬にしようとする事にしたが、季

節外れの台風が遠海に発生しているとの天気予報に驚かされ、又心配もした。

果してバスが東名高速道路に入る頃、雨が降り出した。加えて、厚木・大井松田のあたりで工事のため大渋滞となり丁度正午頃、静岡市へ到着の予定が大幅に遅れて、午後二時頃に篠原鉄工所本社に辿りついた。

情報時代の中で、工事渋滞のニュースを聞き逃したことは、幹事として参加者に誠に申し訳ないとバスの中で悔んでみたが、今となってはどうしようもないことであつた。

さて、見学場所の篠原鉄工所の皆さんは、「雨の中大変御苦勞様です」と暖かく迎えてくれた。そして、我々のために用意されていたお弁当を、バスの到着時間が遅れても御飯が冷めないようにと暖め直して待っていてくれたとの事、正に「多謝、多謝」である。

とにかく、早速昼食をさせていただくことにした。五時間のバスの旅で空腹であつたこともあつた故か、本当においしくいただいた。

さて、篠原鉄工所は、三ヶ所に工場をもって印刷機製造にあたっているが、今回は時間の関係もあり、本社工場の機械組立部門の工程を見学することとした。

大正八年(一九一九)初代社長篠原幹三郎氏が静岡市内において、篠原鉄工所を設立、主に工作機械を製造していたが、軍国主義の時代の波に押され昭和十五年には旧海軍の協力工場となつたと云う。

戦後、昭和二十二年、平和産業として印刷機

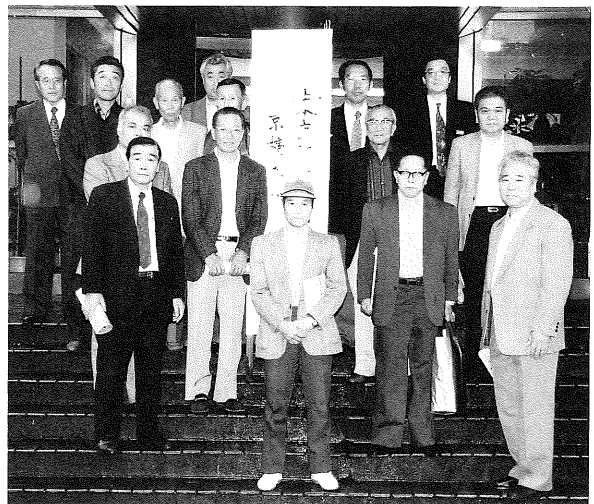
の研究開発を開始、主に凸版印刷機を製造した。昭和三十二年には国産初の全自動二回転機を完成させた。又昭和三十六年には大蔵省指定工場となつている。昭和三十九年には鑄造工場を完成した。この鑄造工場は最も重要な製造工程となつており、今では高周波誘導炉による月産二〇〇トン規模の鑄造ライン更には高精度な品質を生み出すための焼鈍ラインを備え、常に厳密な精度、品質管理のもと、高品質印刷マシンのその最も基本となる鑄物までも内製化している。これは国内唯一の工程で、自分達の技術が鑄物を自家調達することが優秀な印刷機を造れるのだと云う、誇りと自信が大きなバックボーンとなつている様に感じた。

やがて昭和五十年(一九七五)にオフセット印刷機を発表する。昭和五十一年には国産初の反転装置を装備した、菊半2色×両面兼用機を発表するに至る。

この独自開発の反転装置も篠原鉄工所の御自慢の一つである。今年に入ってSRIMシノハラ刷版トンボ/絵柄同時測定装置を開発した。

工場内では、様々なパーツをより精密に仕上げ加工する工程や反転装置の組立て、そして印刷機本体の最終仕上げの組立工程等、製造課長さんの丁寧な説明を受けた。我々のすぐ目の前で手に取る様に鑄物パーツや、組立部門の工程を見聞して、充実した見学が出来たと思つている。

最終に三十分程度、最近のコンピューター制御とのかゝり方の説明があり、短い時間で



あつたが質疑応答の場を設け三、四人の人達から質問があつた。午後五時近かく、研修会は終了した。

篠原鉄工所を後にしてバスは美保の松原へ向つた。窓からの風景は小雨降る夕暮れ、旅のおやどは、木の目が美しい湯舟につかつて静かな夜を迎えた。

夜の宴会は、美人コンパニオン嬢も加わって、大いに盛り上つた。

夜半になつても雨はまだ降り止まず、タクシーをとばせば、直ぐに清水市内に遊びに行けるとの事であつたが、全員一人も外出せず、お行儀良く、早目に就床と相成つた。

宿の女将が、美保の松原から眺める富士の山

は又格別なりとの話があったが、朝になっても小雨は降り続いていて絶景は見逃した。

朝食後一行を運ぶバスは海岸から山の手へ向う、雨も段々と止んで天気は回復した。狭い山路を登り降りして寸又狭温泉に向って行った。

千仞の渓谷は紅葉はまだ見られないものの緑の杉木立ちが目に染みる絶景であった。昨夜の雨のせいであろうか、谷底に流れる川波は、茶色に濁って断涯絶壁の底深く、流れる帯となって流れ下って行く。

車窓を過るパノラマ風景に、こんな閑かな山嶺の中で二、三日のんびり暮らしてみたい気分である——がしかし現実には厳しいもの、この不景気の中、そんな洒落たことを云ってはおれないのである。

帰路も又渋滞の道のりがあったが、無事、夜八時半頃、出発地点、築地熊谷印刷さんの社屋前に到着した。

最新の技術変革は目覚しく、いわゆる電子化の波は時と共に、嫌応無しに進んで来ることであろう。次々に優秀な技術革新が進むにつれてゆく中で、喉から手が出る程に、新しい機械が欲しくなる反面、資本金のない我々小企業は、特に今の不況下の折にはどうこうもないのだが、我等が支部長、荒川さんの申される様に、「導き出されないから、関係なしということではなく、先ず理解し、研究心を燃すべきだ。いざと云う時の対応のために……」との視点が重要であると思う。その意味で今回の研修旅行も大いに意義のある旅であったと感じている。(春原記)

支部の動き

7月5日(火)中央区産業文化展実行委員会、(10時30分～12時)於・中央区役所

7月6日(水)本部支部長会、(15時～17時)於・印刷会館4階、荒川支部長出席

7月13日(水)中央区産業文化展印刷・製本部会、(12時～15時)於・京橋支部室

7月14日(木)部会・監査・地区長会、(11時～14時)、於・支部室、支部長会報告他

1、「本部事業推進について協議事項」
。「プリントズーム」(全印工連発行需要開発誌)の購読について、4回5千500円

。事業者台帳・構造改善調査票の配布・回収について、京橋支部は地区配布

。「プリントテック'94東京」(8月25日～27日)、ポスター・入場券等の支部配送6

月末スタンプリシート・従業員用パ
ンフ7月末配送

。敬老の集い、9月21日、明治神宮、7月8日×切、

。永年勤続従業員表彰者の募集、8月26日×切

。火災共済等強化推進月間(7～8月)、北支部、足立支部

。「後継者セミナー」参加について、37名
。「モデル就業規則」改訂版(全印工連)

の頒布、1冊1千円、10月配本
2、支部提案事項について

。プリントテックの小間取りについて

。モニター委員について

。物資幹施業者のリストについて

。小口融資制度の改訂等について

3、当面する支部事業について

。支部名簿発行について、広告申込み7月20日迄

。新年臨時総会開催他、日時について、7

年2月3日(金)、箱根温本温泉おかだ

。「京橋の印刷」の発行について、7月末

予定

。アウトサイダーの組合から勧誘の依頼

。中央区産業文化展の出展内容について、

協賛金の依頼について

4、その他

。中央区町造り協議会報告

。中央区工団連会報編集委員の推薦、十文

字副支部長

7月20日(水)中央区工団連常任理事会、(10時～

12時)、於・中央区役所、荒川支部長出

席

7月21日(木)本理事会、(15時～17時)於・印

刷健保会館、各理事出席

7月24日(日)中央区商工団体ソフトボール大会、

(8時～17時)、於・月島グラウンド、京

青会チーム出場

7月25日(月)京橋電気安全協会理事会、(11時30

分～12時30分)、於・京橋消防署

7月28日(木)東京地区協議会、(15時～17時)、

於・東京プリンスホテル

- 8月11日(木)中央区産業文化展実行委員会、(13時30分～15時)、於・中央区役所
- 8月24日(水)中央区産業文化展実行委員会、(10時30分～12時)、於・中央区役所
- 8月25日(木)～27日(土)「プリンテック'94東京」、(10時～17時)、於・晴海会場
- 8月25日(木)中央厚生事業協同組合納涼会、(18時～20時)、於・銀座アスター本店
- 9月5日(月)中央区産業文化展印刷部門予行実演会、(14時～16時)、於・(株)ユニゾン、17時より、(株)小森マシナリーにてパネル選定、各実行委員出席
- 9月7日(水)中央区工団連会報編集委員会、(13時～15時)、十文字委員出席
- 9月8日(木)本部支部長会、(15時～17時)、於・印刷会館四階)、荒川支部長出席
- 9月9日(金)文化堂印刷(株)最新鋭オフ輪導入見学会、(9時～11時)、於・小田原工場、支部役員等12名参加
- 9月9日(金)部長・監査・地区長会、(14時～16時)、於・箱根湯本・ホテルおかだ
- 1、支部長会報告、本部事業推進の協議事項
- 。『プリントズーム』(需要開発誌・全印工連発行)の購読について、申込150社
- 。事業者台帳・構造改善調査票の配布回収について、各支部の要望
- 。各種教育研修事業について
- 。『モデル就業規則』改訂版の頒布について、支部一括購入は830円
- 。『敬老の集い』開催について、9月21日

- 10時、於・明治神宮
- 。永年勤続従業員表彰式の開催、11月5日
- 。プリンテック'94の開催結果、約8万人
- 。後継候補者セミナー、参加者37名
- 2、支部提案事項
- 。組合員加入増強奨励金の増額について
- 。減価償却資産の耐用年数について
- 3、当面する支部事業について
- 。支部名簿発行について、10月中旬発行
- 。新年臨時総会々場下見及検討
- 。中央区産業文化展、10月20日～10月26日、日本橋プラザ3階、展示物、マック、カラープリンター、リンググラフ、ハマダスター他、
- 。協賛広告について、目標額55万円達成、内、顧問・相談役・執行部にて30万円
- 。『京橋の印刷』の発行について、12月初予定
- 。アウトサイダーの加入勧誘、4社予定
- 9月21日(水)『敬老の集い』、(10時30分～14時)、於・明治神宮参集殿、京橋支部5名出席
- 9月28日(水)中央区産業文化展実行委員会、(10時30分～12時)、於・中央区役所
- 10月4日(火)中央区民大会、(13時30分～15時)、於・中央会館、相統税減額都陳情集会
- 10月4日(火)本部支部長会、(15時～17時)、於・印刷会館、荒川支部長出席
- 10月11日(火)中央区産業文化展実行委員会、(10時30分～12時)、於・中央区役所
- 10月12日(水)部長・監査・地区長会、(11時～14

- 時)於・支部室、支部長会報告他
- 1、本部事業推進についての協議事項
- 。賦課金算定基準の見直しについて
- 。規模別による賦課金の格差、設備指数割の新しい考え方、他
- 。事業者台帳・構造改善両調査の実施、10月中旬配布、12月16日回収期限、京橋支部は地区配布、本部へ直送
- 。45周年記念役員表彰及び永年勤続従業員表彰式の開催について、11月5日(土)、於・明治座理事長表彰93社311名の従業員
- 。各種共済制度事業加入増強運動
- 。新春の集いの開催について、日時1月13日、会場東京プリンスホテル、組合員、一万三千元、青年会員、同伴夫人1万円
- 2、当面する支部事業について
- 。支部名簿発行について、10月末～11月初
- 。新年臨時総会会費について、2万3千元
- 。関連業者3万円で前回と同額
- 。中央区産業文化展、10月20日～25日、日本橋プラザ、当番各地区割振り
- 。幹事会、11月17日(木)、18時30分、銀座キャピタル新館、会費5千円
- 。顧問・相談役・参与の会、12月9日(金)、17時、躍金楼、会費一万三万円
- 。その他、
- 京橋の印刷の発行について、12月初旬
- アウトサイダーの加入状況、4社予定
- 『モデル就業規則』一部830円、10月配布
- 10月20日(木)～25日(金)中央区産業文化展開催、

(10時～18時)、於・日本橋プラザ3階、各実行委員及地区役員参加、総入場者数約5万8千人

11月5日(土)組合設立45周年式典・永年勤続従業員表彰式(9時30分～11時)、於・明治座、京橋支部関係では、東京都労働経済局長感謝状受彰者20名中、事業主の小宮山印刷(株)小宮山敬之氏、高千穂印刷(株)小山英美氏、(株)小葉印刷所小葉忠昭氏の3名が受彰。

従業員表彰では、東京都知事感謝状受彰者39名中、(株)久栄社、石澤印刷(株)、三雄舎印刷(株)3社4名が受彰、東京都労働経済局長感謝状受彰者93名中、高千穂印刷(株)、小宮山印刷(株)、(株)白橋印刷所、誠文社印刷(株)、ミズノブリテック(株)、(株)三和印刷社、(株)久栄社、石澤印刷(株)、三雄舎印刷(株)の14名が受彰されました。又、組合表彰としては、40年以上勤続者45名中、京橋支部では(株)三和印刷社、三雄舎印刷(株)、伊坂美術印刷(株)の5名、30年以上勤続者11名中、大東印刷工芸(株)等10社、23名が受彰、20年以上勤続者159名中、(株)昇寿堂等10社、24名がそれぞれ表彰されました。式終了後、観劇。

11月7日(月)中央区産業文化展出席協力企業及び協賛会社へ御礼廻り(9時30分～16時)、荒川支部長、十文字副支部長他。

11月10日(木)本部支部長会(15時～17時)、於・印刷会館、荒川支部長出席。

11月17日(木)部長・監査・地区長会(17時～18時20分)、於・支部室、支部長会報告事項

1、本部事業推進についての協議事項

。事業者台帳、構造改善両調査の実施、12月16日締切、早期提出にご協力下さい。
。転貸融資規程、文化産業信用組合小口融資細則の改訂、連帯保証、24回払100万迄
。用紙価格の値上げ攻勢への対応について
組合として一斉値上げには応じられない
。各種研修・講座の開催について
。マックパソコン体験スクール11/9、簡易管理用ソフト実践研修会11/17、経営

管理者のためのコンピューター講座11/29、管理印刷営業講座1/19～2/9。
。新春の集いの開催について
1月13日(金)17時30分、東京プリンスホテル、組合員1万3千円、青年会費1万円。

。最低資本金制度(商法・有限会社法)の改正についての対応。
。その他事項、売上動向調査結果について
積算資料について、支友会について

2、当面する支部事業について

。支部名簿発行について、11月末頃。
。新年臨時総会について、2月3日(金)。
。顧問・相談役・参与の会、12月9日(金)、17時、躍金楼、会費1万3千円。
。その他、退任役員記念品について、アウトサイダーの組合加入状況について
組合脱退2社、次回地区長会2月3日(金)

11月17日(木)本部理事会(15時～17時)、於・印刷健保会館、各理事出席。

11月17日(木)支部幹事会(18時30分～20時30分)、於・銀座キャピタル・ホテル、会費5千円、40名出席。(本文参照)

支部員の移動

加入組合員

。(株)モースト・アンドモア、木島照夫氏
(新富地区)

。(株)坂本印刷社、坂本史雄氏(八丁堀地区)

転入組合員

。布施印刷所、布施一男氏(入船地区)
。(有)銀座玉貴堂、玉木登志之氏、銀座4-13-14、電話3542-6827、文京支部から転入しました。(11月)

脱退組合員

。(株)フヨウ、横倉守氏(湊地区)

。イトーラージ印刷(株)、伊東聖氏(京橋地区)

所在地変更

。(株)マルナカプリンティング、阿部稔氏(湊地区)
。オカムラ印刷(株)(新富地区)は、湊2-2-8、中央桐村ビルに移転しました。
。聖文社印刷(株)(湊地区)は、湊1-14-9、近代ビルに新事務所を移しました。
。八芳印刷(株)(新川地区)は、新川2-30-11へ移転しました。

支部幹事会開催

。(株)サン・アート(京橋地区)は、銀座1
— 19 — 12、理研ビルへ移転しました。

11月17日(木)、18時30分より銀座キャピタルホテル新館にて、京橋支部幹事会が中島副支部長の司会で開催されました。まず荒川支部長が挨拶して、発足してからプリンテック参加協力や中央区産業文化展への出張当番等のお礼を述べました。続いて十文字副支部長が「乾杯」の音頭をとって、新役員の皆さんがこれに和して乾杯しました。しばらくの間、いろんなご馳走を楽しみながらの歓談が続いた後、新執行部の役員紹介が荒川支部長によって改めて紹介されました。引き続き、各地区の幹事の紹介が各地区長によって、京橋、銀座、新富、築地、入船、湊、八丁堀、新川、月島の順で紹介され、拍手を受けていました。

総勢40名の紹介が終って、各地区代表によってカラオケ大会が催された。予算の都合でコンパニオン嬢なしの宴会を盛り上げるといふ、司会の中島副支部長の肝入りで、優勝・準優勝、3位の方々に各10年物の洋酒が用意されました。9人の方々は、いずれも各地区の代表だけに、甲乙つけがたい点数でしたが、優勝は築地地区、(有)すのほら印刷所、春原地区長、準優勝は銀座地区、(株)京屋、児玉幹事、3位は湊地区、(有)中山印刷所、中山幹事の3名の方々に賞品が荒川支部長より手渡されて拍手を受けていました。8時半になり、中締め音頭を、関根副支部長

が行って、景気よく3本締めでお開きとなり、皆ホテルのおみやげのワインを手に、帰路へつきました。
(岩本)



文化堂印刷(株)小田原工場見学

9月9日、京橋支部部長・監査・地区長の有志13名が高精細印刷の実需で、リーダーシップをとる文化堂印刷(株)本社工場の新導入の世界最高速、三菱リソビアBT1-600型、縦全判4×4オフ輪の実働状況を見学しました。当日は9時過ぎから東京等からの招待の印刷業者50人が

続々と出迎えるバスで同工場へ詰めかけました。普通は同業者には開放しないのを、同社はオープンにして、防音装置のガラス仕切り部屋で稼働中のオフ輪や、折り工程の機械、自動梱包装置等の現場、及び製版部門ではサイテックス社製の高精細対応のレスボンズや製版、刷版部門の部屋を見学者へ開放していました。中庭では仮設の大テント内で冷たい飲物や軽食迄、提供して見学者を接待していました。約1時間見学の後、同社を後に、新年会々場の下見へと、箱根湯本ホテルおかだへと向いました。尚、同社見学については、(株)ミズノプリテック、水野雅生社長のご紹介によるもので、大変有意義でした。
(岩本)

編集後記

今夏の猛暑のせい、都内の木々もやっとう紅葉の盛りとなりました。不順な気象のせい、今冬も暖冬との予報がされています。

今年の印刷業界も不況一色で、益々厳しい年となりました。高成長の続く、東南アジアや中国の景気につられて、来年は我国も少しは持ち直せばよいのですが。

さて今月号は、京橋、銀座、築地と3地区が研修旅行記を寄せて下さいました。お蔭様で、久しぶりに地区だよりを満載する事ができました。今月号で17年を迎えて、90号を数えるに至りました。100号を目指して皆様からの寄稿をお待ちしております。